

木曾路名所圖會
六

ル 3
3261
7 (A)



木曾路名所圖會卷之六

目録

慈眼大師堂	新宮鳥居	御宮	拜殿	神樂所	鐘樓	御廐	御飯殿	深砂王宮	見目祠	日光山	黒髮山	下桑石	長阪	石燈爐	御手水屋	鼓樓	護摩堂	奥院	三佛堂	龜井水
樟石觀音寺	神橋	石鳥居	御番所	紫洞御鳥居	御本地堂	御唐門	御別所	常行堂	梅荷祠	星宮	飯橋	五層塔	二王御門	經藏	陽明門	御瑞籬	相輪檜	法華堂	文殊堂	

西 几 4
號 289
卷 7



北日御靈舎
 新宮別所
 阿彌陀堂
 地藏石
 山王祠
 御別所
 二王風雷門
 根本祠
 卅番神堂
 不動石
 御産宮
 三層塔
 本地堂
 新宮大持現
 十八王子
 三尊石
 薬師堂
 不動堂
 正観音堂
 龍尾社
 子種石
 手拭石
 七花泉
 白山権現
 本社味耜社
 山王祠
 金剛堂
 毘沙門天
 大黒堂
 行者堂
 二笠赤倉祠
 持燈護摩所
 千手堂
 酒泉池
 外山
 天神祠
 小玉堂
 辨天堂
 稲荷祠
 慈覚堂
 山王祠
 十王堂
 石橋
 熊野杉
 石鳥居
 幸地堂
 三本杉
 氷岩
 地藏堂
 四本龍寺
 鹿島祠
 護摩所

本巻(目)二

番神堂
 南谷
 釋迦堂
 池石
 不動堂
 大黒山
 羽黒瀧
 護摩堂
 骨堂
 金剛山
 十八王子
 足痕石
 観音堂
 別所
 西谷
 愛宕祠
 二本杉
 三笠赤倉祠
 富士見山
 性生院
 石地藏
 素麩瀧
 中禅寺道條
 薬師堂
 鞍掛山
 足尾
 三宮
 善女寺谷
 八幡祠
 常行念佛堂
 寂光神社
 川俣温泉
 阿彌陀堂
 靈庇閣
 平石
 地藏堂
 大日堂
 煩悩山
 馬返
 一宮
 妙道院
 延命地蔵
 求聞持堂
 二子山
 別所
 慈雲寺
 赤柳山
 二宮山
 蓮華石
 裏見瀧
 清瀧権現
 不動堂

神子石
 溪地花
 立本親喜
 戒檀堂
 三層塔
 藥師堂
 龍燈石
 紅葉浦
 宇津瀧
 湯幸道
 湯滝
 燒湯
 藥師湯
 牛石
 鐘樓
 中禪寺社
 根幸祠
 護摩所
 日輪寺
 依石庵
 椰子庵
 葛蒲沼
 赤沼
 湯守
 世湯
 河原湯
 中禪寺
 不動堂
 男體山
 摩伽羅天
 歌乃溪
 上野島
 千手溪
 大寄
 獅子淵
 弓張猶
 御所湯
 自在湯
 大真子
 湖水
 妙見祠
 三社權現
 山王祠
 梵字石
 鳳凰水
 大鳳
 金腸
 幕張山
 滝湯
 中湯
 小真子

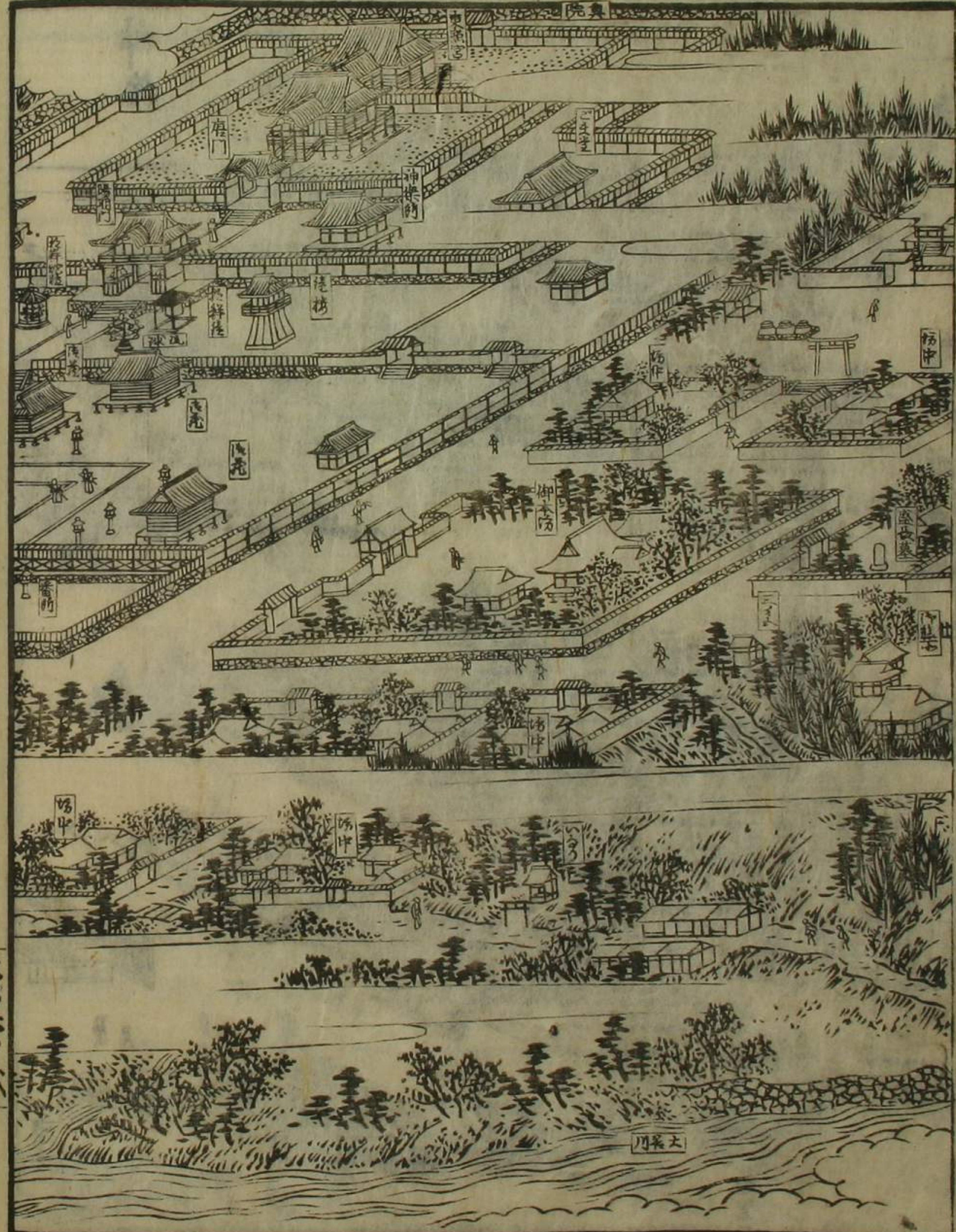
本卷六目二

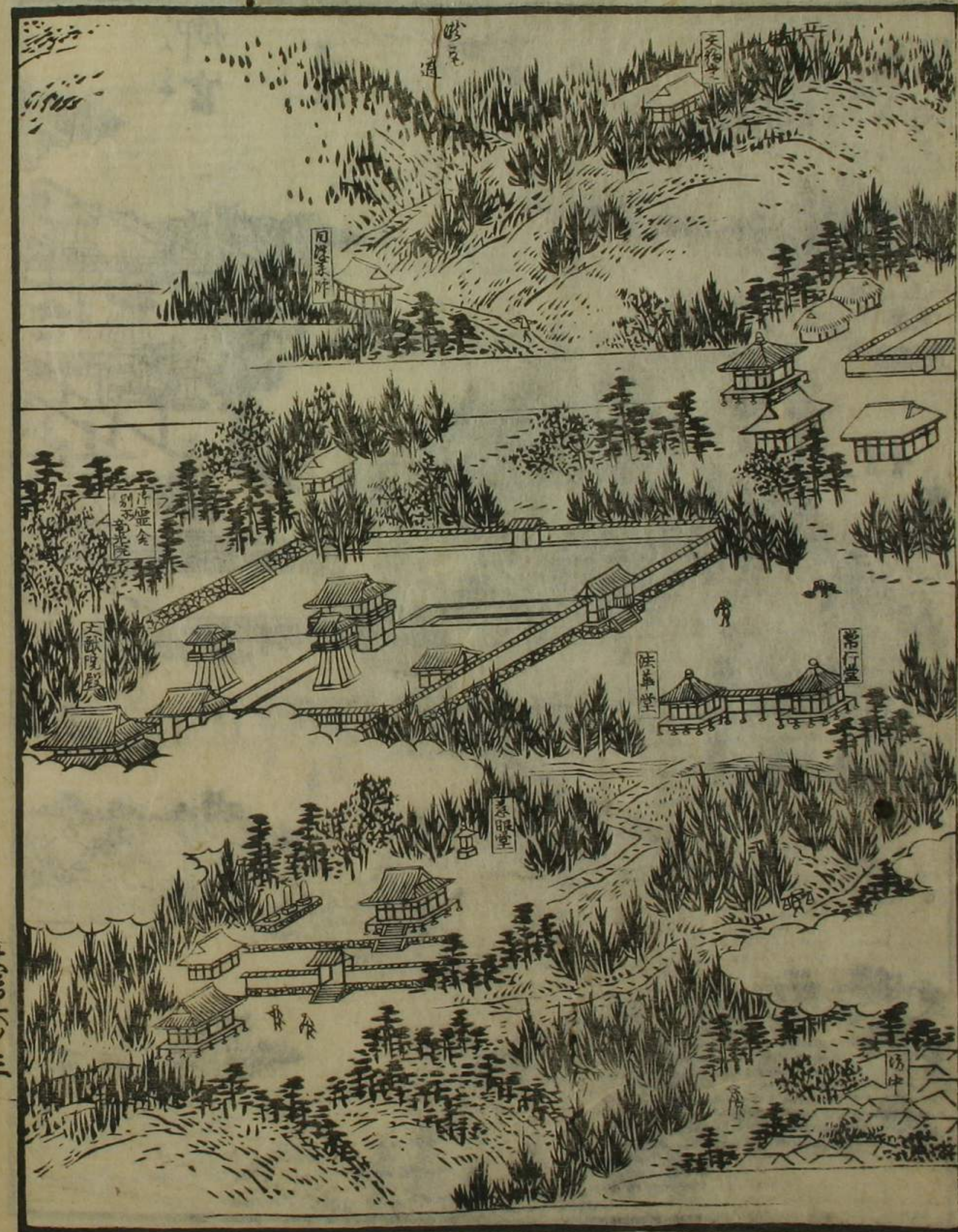
碎山
 前二荒山
 温泉嶽
 白根山
 日光名産
 宇都宮通
 野本
 越前
 雀宮
 小山新宮城址
 不動院
 浅竹川
 堀兼井
 帝釋嶽
 三笠山
 女峯山
 湯殿山
 日光名製
 大王山
 赤倉山
 太郎嶽
 華嚴嶽
 從日光道法
 雪嶽
 鈴嶽
 月山
 大平山
 壬生通
 宇都宮
 小都宮
 真土山
 石橋
 新田
 幸田
 安土寺
 藥師寺
 千住大橋
 霞ヶ関
 向岡
 金龍山
 千住大橋
 霞ヶ関
 向岡
 金龍山

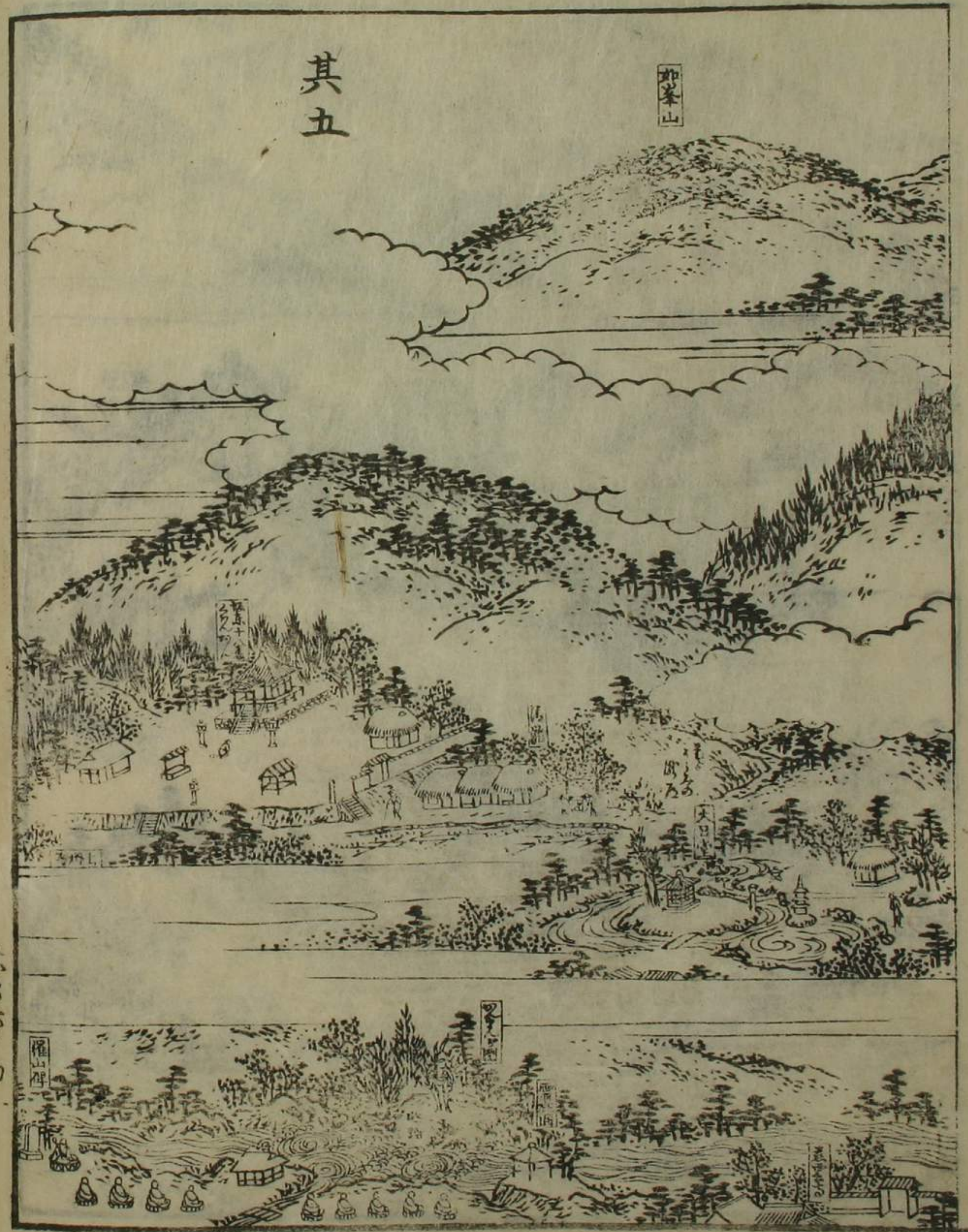
木曾路名所圖會卷六目錄畢



本卷六ノ末







木曾路名所圖會卷之六

今はむく一具原益軒のあふふれ日光名勝記をそのくくびまふ
宿しぬまのうたまたまよく徳良下所の弘成とて大沃今市を越
所安所よつろこれあん日光山のそとめて宇治宮より九里其道ぬく
上る山次第小高し左右の側を老杉の列樹蔽りてを暑を避す
涼しく御心とまふなりめをばさうて麓に佳奈の霊湯と

柞中聖國都賀郡二荒山と人皇四十八代の帝額徳天皇の御宇神
護景雲元年勝道上人の開創なりけ上人の曰は芳賀郡室八幡とて
出延あり父と垂仁帝第九の皇子纏向尊十餘代の孫若田氏高藤
磨とて母と正二位大后若田清磨の息女と父母嘗てふたれ
幸茲此の山出流山千手大士と稱し移り移りて一七有満る
八葉の蓮は中に藤系に纏光る玉の中にあるもの成ると云て
それより妊身と有りて月満上人を産むと則ち後の告ふ有りて相名成

本卷六ノ一

藤系丸とあつけ移し移す小見初妙とて異相ありて佛口本公
ゆり砂成あり先土をよむと堂舎と營むと業成るむ好む移りて
生成て出流の親者ふ系をて移すの修好の内ふたびく不思後
の所告あり二荒山開創者幸成思し石立移り廿七葉の所附日
國業除寺にくり創設し移り移りて来念成遂んとて山とて
き幸宮四幸龍寺依所建營ありて厥后中禪寺とてひその
所の靈社をあらむとて清系創ありと成幸ありて弘法大伴登山
し移り二荒を日光を改先あり又慈覺大師も登山し移りて
所く小堂社成りてとて移り移りて星表八百餘葉を移りて元和乃
頃慈眼大師中興の困山とて 神威を海内と稱しつる成
其靈湯成ありけありも移りて其ありと記し侍のそ

黒髪山 日光山の幸

鳥羽玉の玉ふみの山若小なる海にたれくそ移りし 漢金丸

新十

藤人の真菰此差や朽ぬらん等み山の五月雨乃以

公實

新後拾

身のふかからん事とささるぬ思故山を登る雪

頼政

日本紀第五云

崇神天皇之子豐城入彦命夢自登御諸

山向東而弄槍

八回撃力於是奏夢事天皇以豐

城命令治東國

是上毛野君下毛野君之始祖也

延喜式云

下野國河内郡二荒山神社大

神社考云

余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與

補陀洛音相似

由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛

山歟

釋書云

勝道姓若田氏

野之下州芳賀郡人早山塵累鑽

仰勝業州有補陀洛山

峰巒峻峙振古未有陟者

道以神護景雲元年七月

企跋涉路險雪深雲霧

晦暝不能登止山腹

凡經三七日而還天應元年

本卷六ノ七

孟夏又興先志亦屈而退延曆之始季春之月發

大誓致勤修且日者回不到山頂亦不至菩提漸

達于頂衆峰環峙四湖碧深奇花異木殆非人境

道堅誓所遂悅目喜心乃結蝸舍於西南隅修懺

又三七日道雖究山區未盡湖曲三年之夏造小

船浮東湖西南北湖備極游蕩就勝處建伽藍曰

神宮寺居四載道行與靈境並傳桓武帝聞之勅

任上野講師又與都賀郡創華嚴精舍大同二年

州界大旱刺史令道祈雨道上補陀山行法雪甘

雨速降百穀皆登

圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人也昔崇神天

皇第一皇子豐城入彦節察東壤其次子留為鄉

人仁其胤也延曆十三年生焉是日紫雲覆產屋

同書云

其法は凡そ山之都ては是れをんま六四方をせぐをんま六

○神橋 神山入山あり 欄干葱宝珠あり 石も朱塗あり 橋を

つりて山菅の蛇は橋をくもて 田基勝道上人もゆて登山

深砂大王忽其て現し 青赤の二蛇を放て橋をくも

中頃を神橋と名ふ 橋乃竹折三通あり 此乳の本より

假橋 標干あり 附東の人馬をくもる 河を大谷川と云ふ 河

深砂大王宮も岳の類へ 大明院一品准后法親王の真筆なり けは

長坂 御宮への道筋 神橋より登坂あり けは坂を所才行あり

日所道のよふ月長月の清衆は清後所あり けは所よけく三品

中山通り小寺四所あり けは中本海と流して寺内小安達

石鳥居あり 黒田長政彦寄進あり けは石鳥居 黒田志麻小

南山は達せられしより見く けは奥本元和二年四月と云る

石鳥居の鳥サを石より上のまを平で二丈八尺九寸貫石の下

所へ街道列杉とて松平を度り 支所寄進の碑に神橋の印あり

深砂大王宮も岳の類へ 大明院一品准后法親王の真筆なり けは

長坂 御宮への道筋 神橋より登坂あり けは坂を所才行あり

日所道のよふ月長月の清衆は清後所あり けは所よけく三品

中山通り小寺四所あり けは中本海と流して寺内小安達

石鳥居あり 黒田長政彦寄進あり けは石鳥居 黒田志麻小

南山は達せられしより見く けは奥本元和二年四月と云る

石鳥居の鳥サを石より上のまを平で二丈八尺九寸貫石の下

上二丈を尺上の望石の横を六間二尺五寸兩柱の間中へ二丈式
尺柱のつろろ二丈守りなりと二兩柱は徳目一所にありき居小敷あり
長サ四尺七寸横式尺寸七分ありと和浄家と 後水尾院宸鏡し
左の方

○五層塔に柱ハ酒井續俊守浄室附より幸き東の基階為ハ浄院
北を東邊南ハ多慶中央大日如来あり

○御假殿 三柱あり 御宮浄造誓の付遷文ありより所へは所あり
二六寸中の浄法はくろろ又和月十九日廿六日屋上まで毎年浄湯と持
ちたる別は浄の釜三つあり

○二王御門 赤い浄の赤石馬本兩眼石燈籠兩基と酒井續俊守源忠
勝頼の浄を納まり同じく右の方

○御番所ありは所ありとつ物とれ物をぬきとて浄とみどり小人
入るは旅客と事所の事亭まより掃藁の社傍小坊ありとる客

けつつひ金とく社傍の浄法のを有く浄門表小見せり一見とく
出入を石垣とえ石二つありこれと南より物持徳侯の寄進小あり
あり小二つの名物ありと才一より石高石二尺五寸重浄才三小石垣の大石と
せ里人より石垣の内小堅横三間併の大石ありこれに阿房石花園と
りたつとくをさる

○二王御門 左右阿門二王長一丈式尺餘裏の方ハ唐獅子なりは御門
城へく左右は金燈籠石燈籠あり是と諸産方より浄を納まり右の
方に浄室三箇所は及本厨あり横一樹あり

○浄廩素本造より浄神馬ありとる下廩ありて浄を浄の浄付
け所へ来る

○浄手水屋は浄手水舎ハ浄石柱より建て天井の彫物を浪小飛
龍形の手水石柱と肥前佐賀の城主瀧崎侯肥前より石運送り

○浄を納まり奉徳の寺殿よりとる浄の口漱ぎとて浄を

○紫洞御多居あり

○經藏傳大士の像あり傳小矣佛と云ふ法石階を登りて

○鐘樓鼓樓左の方小朝鮮より献上の廻金燭臺あり右の方小朝鮮より献上の掛鐘あり

日光道場為

大權現設也

大權現有無量功德合有無量崇奉結構之雄也

味曾有繼述之孝益彰先烈我

王聞而歡喜為鑄法鐘以補雲山三寶之供仍

命臣植叙而銘之銘曰

丕顯英烈 肇闡靈真 玄都式廓

寶鐘斯陳 參修勝緣 資薦其福

鯨音獅吼 昏覺魔伏 非器之重

唯孝之則

龍天是護

鴻祚偕極

崇禎 朝鮮國禮曹參判植行司直吳敬書

は鐘乃不持ん正月ニテ日清紐式の耐時とるりは左の方小阿茶院

の寄進せし地盤あり其制法日本物の物小くありあ中凡物又琉球

より献ぐる二十六缸の地盤ありは色諸度方より舟の清地盤

ありとありは所西の方小

○御本地堂奉尊藥師如來三列鳳來寺碑の薬師と稱し二菩薩

十二神將を安置んは所堂大伽藍に一て天藻柱金標卷長押の

地紋もあつてつまも金根と稱えたり備寶殿の天井も八

間小檜りた子龍の画あり狩野永真安信の筆あり

○陽明門 但一武士は所めて刀とぬきて所門内入く

は所門内を移くも 禁裏の陽明門を標と表めし所隨身左

右より極彩色なり裏と風神雷神御門の御額ハ

後陽成院の宸翰あり信小勅額門にも之なりけし神門の結構比致し彫物も琴茶書画あり八周公且織撈費長房盧敖琴高院籍枕背康豊干王子献孔子顔回とありめ其外二笑四友六侍九哲也至ふまで悉記を小字端々と及び板生れと豹虎龍麒麟獅子摸いづれも南本の端小刻ありあり其中に多りたる所もたつと香の鳳凰孔雀其外唐多あり日本此禽獸といふも千といふも板彩なり同様に威令のうか物記ありけし板小光輝とてありけし照とてありけし中の通りれ天井也然の狩野探幽守信の筆ありけし同乃天井也天女が畫も左右の御回廊折廻し百回ありけし彫物の樂天が友子献け此君又文をぬむ梅枝杯ありけしやびとけし神門を令く庭上もなる栗石を楕円より巨れけしけし左の方あり

○神樂堂毎日八乙女仕りて神樂舞を奏しは祈ふるにびく

○護摩堂奉尊五太尊明王十二天を安置は祈ふおめて正五九月十

一日より十七日まで天下安全の祈祈禱の護摩と修りせしむる

○御唐門素木造神柱とより龍下り梅竹の彫物金具繫し向ふ乃

破風と件由巢父あり七賢七福神等彫物あり天井も天女の彫物ありけし神門と沙汰唐木柱をけし書字も書下りけし所の彫物の至りけし

寧ろる文記とるふ字も及ひけし一枚の板と其向ふ不講ふりありけし

いづれも細ある所りても彫の本は用ひて修るるありけし殊に細工の如し神

に入るるの也神座指の上は唐銅も書とて中座も書り神門の左や

○御瑞籬け彫物の千草萬花ありけし庭をくの庭を本間も遊び鳴る風

情英霽あり

○御拜殿鷲口二所あり香瘡の男女を修りけしあり

御兼座も二十六歌仙とけし侍神ありけし
後水尾院宸翰あり繪の土佐左近將監の筆ありけし 御着座の間と
両方とも小異邦の名木香樹を集く造りたる偶けしありけし

○新宮の鳥居 淨額正一位勲一等日光大権現と書け 一品宮公寛
法親王の真徳あり

○三佛堂 當山一の文伽藍本寺の弥陀佛長九尺守千子觀音馬頭
觀音とあり長八尺守慈覺大師の淨作之日光三社大権現の淨作池
堂あり又堂内乾の隅本勝道上人の淨教あり其方に軍荼利明王
の像ありそ持よりそ所行り也

○常行堂 本尊ハ寶冠の弥陀四菩薩後本摩多羅神とあり其堂
に賴朝公の淨骨あり其後そて作られたる寺とあり其堂ハ皇
仁十九代守多天皇に法字寛平六年の季創り

○法華堂 本尊ハ普賢菩薩鬼子母神十羅刹女二十番神傳教之師
の淨教あり其堂のけり也と皇仁二十二代徳和天皇の淨字天長二年の
建立也堂内ハ傳教大師淨教の法華經一巻納めりけり其堂の回
小道のあり其城二町あり登り也

○慈眼大師堂 天海の淨廟あり寛永二十年十月二日遷化し其勝道上人
より五十一世の淨庵主とて中真の用山りり當山は法華ありそ其代不易
の基成りし後そと即そ人本は大師の淨徳ありそ淨庵主とあり其
今之はは雨大師淨一作とありそ其代不易の主人本水舎あり其諸
侯方より上りし石燈燭あり其の方は道法少也 ○龜井水 ○稻
荷社 ○石像の三尊佛あり其所左の方本當山 御座主所廟あり
本照院宮 久遠壽院准三后 解脱院宮 大明院宮 其の淨石燈燭
あり其所 ○文殊堂 大師の淨本徳あり求聞持堂あり其淨持經
系淨持所あり其持よりそ所行り也 ○御別當 毘盧量院あり

○廿日御靈舎惣門 本二王あり二天門淨額 後水尾院宸極りり其
夜叉門次御唐門瑞籙御殿其御本堂都々花矣壯嚴堂
御宮本はあり其の彩色七寔を法光り淨持の内は法度方とあり
上の石燈燭凡五百基并あり又朝鮮より獻ぐる金燈燭あり其淨堂ハ

乃多事備の者と許さるる日所也の方御別所権光院より毎夜御膳
成備

○新宮大権現 八棟造りて本殿あり日光大権現を稱し其れ
祭神之大己貴命幸地を千手観音なり社を仁明天皇御宇
年中意定入降の御創建より凡は國中の大社なり東海あり
見くすは権現の御利益立敷豊饒福壽長満の御神之神靈也
絲く切丸を力世の御もれを刀指とも五尺符ありて靈劔り又
小山刺官が着したる獲甲其外玉葉とて深藍珊瑚珠一ツと二百目
あり頼朝公の御願書されぬ奥列奉齋退討のとき持されし其外
什寶ありて中めも勝道上人は権現の御對向の附夜の御小書せ
す御神祕もは社小帳され毎歳二月二日を祀り二月廿八日より
三社の神樂をお殿小飾り供せられ産子の妓藝と春日より祝言
其日小まうて衣裳とびり親あり其所地真ありて神靈成りて先

なれ神樂と平宮神幸なりと傳へ三佛堂のありて延奉の齋なり
幸あり一山の衆徒中出動ありて是處社所あり右の方に

- 金剛堂あり ○慈覺堂 素本造り幸き慈覺大降の御教あり
- 三十番神 不動尊成安氏 ○淨供所あり
- 新宮別所 安養院 文殊の像千子の像あり常行堂の東方あり
- 新宮本社 ○十八王子 ○毘沙門 長五尺許 ○山王社
- 阿弥陀堂 慈覺大降 ○三尊石 毘沙門は千五百行者 ○大黒堂 運慶の
- 十王堂 ○地藏石 右の方尾尾の道へ入る勸堂より庵庵中を十
- 二町あり小坂を登り中行ふ
- 薬師堂は新く靈泉涌出たり神成りて服成はははは多小
- 勝るよりよきとありて目院是所と云はく
- 行者堂は坂のそりあり幸き彼小角よりお小道を察あり
- 石橋あり 紫制の所あり

○山王社 向お違より ありき居あり 此社を嘉祥年中 意定之降の
作建堂あり

○不動堂 本寺明王二童子共運慶の像あり け向しと滝尾とに不
飛泉あり 石階をせりて中程小

○三益赤念願神の石造の祠あり
左の方小 ○坂中石不動あり ○慈母松とて著供養の場あり
其坂の上

○淨別所は所して日光貴とて食物成せし者あり 其
食物成あり 又強素ふ幸くあり 又小捨持好の責道具あり 此
つげむとて又大煙管あり け向し別所くむとて及ぶ坊中町

中してとては幸あり 地所より身とて初く年成る人勿編た好く
とて 淨代系の法度方丈の客本へ張立のば飯成強幸古例

なり 又日光の淨代地にて孝子僧徒勤宅あり 此所より必日光寺
此より進は所小あり 幸よく其のば先甚新禱く好むとては此より
け向し人氏家の地を素禱を所してとてあり け向し別所より滝乃

向し城素禱告とて

○正親善堂 本寺長五尺修り びよ三十番神例よ

○採燈護摩所 本寺石像不動あり け向し入孝の信徒執りせしる護
摩あり 雲結あり け向し別所よりとてあり

○石名居 け向し右上方の滝あり け向し持ん向し

○樓門表 二王裏より風雷の二神を祀り 弘法大師の淨寺よ
て女躰中宮とあり け向し門とてあり け向し

○御幸社 滝尾大権現祭神 田心姫命 本地より阿弥陀如来 け向し造
の淨社より 押入を五十二代 膳職天皇の淨願より 淨造堂あり 此

當山のありとあり 妻成と當社よりありとあり け向し淨神靈あり 是
弘法大師の淨寺にた 銀右銀の不動寺 月尊の石標に名舞 秘寺の

二王其外 奇地の面より 降しとて火の物と玉水の物と
る 弘法品類あり 淨幸社西の方小

○千手堂宝瓶造奉り長六尺餘弘法大師の淨池

○幸地堂奉り阿彌陀觀音勢至の三尊佛惠心傍都淨池也日幸

に三躰の幸き日所後の方小

○根本祠小祠ありて後より西の方への道と

○子種石亦小なる居ありて子種人けりて新系と見たりて靈應有

○酒泉池は池直七尺なりてひりて新より酒涌出せりひりて今ふ

○三本杉奉社の後小ありてめりて小石の垣ありて三社の神本は日光の三姑

○三十番神堂 狭路を往て六十番の虎徑の前へ古社より下向

○飯盛板は板古本より枝より下へ下りてあり

○枅門と云ふ本の名居あり又左の方小○淨神

馬碑と稱す淨苑の淨馬の碑ありて長年中濃州淨陣の附け馬

○外山と云ふ鬼門天を跨りて山の上の鬼門は高き六丈餘を

○氷岩を畏る月を

○不動ありて別は七所ありて

○天神社跡尾下向道右の方山脊小ありて石造の社ありて其の寛文元

○十王堂

○地藏堂宝瓶造奉りて佛岩と云ふ奉りて座像ありて運慶の作

○十王堂

○十王堂

○十王堂

○十王堂

○十王堂

○十王堂

○十王堂

○十王堂

薩摩の再建は是れにしては所不三多の故に其心盡くもつて○裏
上人の廟前子友人の墓あり上人の骨の中禪の上此佛小納土
まじり

○清産宮向物ばうま社に本地普賢菩薩よりは所て妊身の女
立物とれを安産とは所のいれり

○白山権現本地十一面観世音相三様より坊舎の系派通て中支物
小玉堂多井物殿あり当社と早の化神とは神の清幸神祇

をまは知る人ありこれよりま何はせゆと幸宮の境内入石橋と波
て幸本造のきあり

○四本龍寺宝粧造幸宮の千手観音より坊小五丈の勝道上人安
も尚山室拜の時上とまは住居よりま是跡なり

○三層塔幸宮釋迦文殊普賢を安ん
御本社物殿あり系神味拒高長報命幸地佛と馬頭観音あり

大月二年勝道上人は所小劫修し終ふま社を宇勢又と清一射より

又宇都宮の社傳と大已貴命やらの当社清神と専武運長久弓
某の清護神なり神威つらるる下野の大社なり神寶と神明の

清化の十一面観音中将姫蓮の系に織る佛馬の切枝珊瑚珠木具
外志かくこれあり末社あり○辨天堂并十五童子○鹿鳴社

○本地堂馬頭観音○山王社○榴荷社○採燈護摩所石像
不動大日菩薩と安ん○鳥居ありて○三十番神堂より終る

○別所は不も日光責の道具成けは至る別所の内柱小かけ一面
十一面観音表として観音はる終るり懸けては別の別所も長本

の間とのま秘窓の濃摩渡りの間あり其わらは極みか佛祿表
て建まるとは小様石像の者入る幸叶は不思慮するもまは別所

のあは方森の内小
○三宮 幸池普賢菩薩
○一宮 慈野権現 幸池文殊菩薩 けま社に清旅所あり

上ノ立子佐中より神橋の中に入りて西谷の坊舎より西ノ西ノ
道より大谷川の川端を通りゆく又これより西ノ方縮着川をわたり七
町をゆく天名律院あり真雲院と錦丘山御座主御建より
奉堂希小ニ社拝現社経流浄橋門等建を信爽凄涼なる雲雲浄
堂の佛界より浄寂と戒光殿一正法親王の法をのり

○南谷 西谷 吾女寺谷河走も神橋より西より南より西
町へ出る 四折所 石所 小袋町 奉町 上中下 大工町 上中下
板橋町 蓮花石所 此町の赤茶田母沢より上り高橋あり

○妙道院 石所の端より寺一山の善持所寺山小○釋迦堂
寺座像の釋迦佛文殊菩薩と惠心の作り希は慈眼大降の浄教有
けきして常の念佛と修の堂のりあり○愛宕持現寺敷去日の

修より西谷出く町頭小○八幡社当所の法守より上り西
○六地藏堂あり此堂のり流石通りて寂光寺へり遠あり神橋より

寂光寺で二十町餘あり此道入口の脇

○延命地藏堂それより七八町ゆき○池石は石の上より西なるあり
ゆふゆき又俗の云ありゆき生けさせり名馬は石の中より
出り馬の蹄の痕ありとせり六町やとゆき寂光の地小へる

は入り小
○二本松南の一大杉多く大サ牛沢隠居より道狭狭く二つの木お射
せりけり赤い葉店ありとて六七町程のり左の方

○常の念佛堂奉るの法院三寺佛意の浄化く浄正躰は阿活院を
寄ははきより釘念佛の札あり又初をば訓は指さるる是なりゆき

常恒不息の念佛札は堂内より釘念佛の世降覚源上人の浄教ありは
上人縮王より將來せり浄取の印文ありとせり此縮起小あり

堂の南より南より高れ所小
○求聞持堂奉るの虚空蔵菩薩意の浄作より教と



重
見
瀧

一品准后法親王の真翰ありて居沃へて向の方小○二十番神堂又
 少し登りて○不動堂○三差赤倉の社あり又少しのかりて
 ○御殿あり
 ○御本社寂光大持現多神ト照娘命幸地と辨財天女あり高社を
 弘仁十一年弘法大師の宗奉あり竹室廿二の箱自身鏡その外
 ありこり右の方小滝ありその源遠ありて指掌く辨るるんを
 尋の市成橋とあり一腕の南小ゆるる山傍の岩窟友の町とあり
 石工穴延の梵字城四字空海と云終ふ地よりよ小○二子山
 ○大馬山は奥小入る○富士見山ありけ峯より富士の高程あり
 かなれば
 ○川俣の温泉をわく女入湯きりり所幸社より下りて
 ○別所あり寺内小辨財天十五童子小安にけ寺の長の方小
 ○羽黒滝をわくり見ゆる所より下河大工間を通り森の中小

○ 養生院は寺に二山の墓あり橋門の款と弘法大師の寺ありて妙元門ありけり寺の名物と日所よ

○ 阿弥陀堂幸る海陀三尊佛去日の地と舟より大谷川の橋成りしに日向河原とて少一町あり

○ 慈雲寺神徳より道十二所行あり幸ると慈光大師又涅槃の款あり寺の南大谷川より舟よりけりて忠のよ

○ 護摩堂ありけり所合満が剛より向ふ忠れ人母不動の石佛圓寂降んぞとて此堂の剛の尊小幡輪の梵字ありそれよりけりて左の町と山寺よ

○ 石像の地蔵其教とて又赤の川端よ

○ 霊庇閣は園より昭成施を幸真丹廬山の五老峯青天際人物と金葉菴ともいはれと風色より揚園忠が沈香木成とて園とて一椀木成揮り射香乳香と土和して泥とて一椀小椀と四香園ともいはれ登りて向ふ高ふと○ 赤柳ふより又管の奥よ

赤柳の奥

○ 骨堂とれある岩城切ぬれと法人の骨を掩むそのよ下罹ふとれ折せぬ

○ 碑あり傍小石像の地蔵より座像六尺許はけり小剛あり慈雲寺の門とてよりけりて寺に境内より三所坪の間河中も

又河岸もと奇ん怪石あり赤の寺ありけり佛とて板小梵字の名号と書とて求れとけり書とて幸河り又川薩頂ともいはれ所と園寺乃

高此とて雲小紀の高野山の系傍もと考中とれ至聖とていふとて身よ○ 赤石とて十五尊の石ありとてより身

に右の方けりて高れ中と

○ 二宮山薬師如來金剛童子の堂もあり日とれけりよ

○ 金剛山は上代化糞の窟として入孝山はの窟あり秘基勅りの道場なりけり地へ人考りてははれありとていふ見ゆと○ 松とてよりけりて入峯勅りの所ありとていふ見ゆと○ 山嶽とてみか聖神のませぬ所かりとていふ見ゆと

大谷観音



日光の街
光の道

野



大谷六九三

崔宮



不靈峯あり実不天迎りて星河半派後して星の雲霞して風環
 雲よへく環を春山の待小作りて情ありけりめく春の人清津心
 と形して伝境小へふくと環るる
 ○湖水長サ二里幅二里あり山一里半許の所もあり口面不經木梢竹
 赤川と湖上秋霞ふと冬も共為系平と山も水面小浮まだ底部と
 深れども魚鱗印ももまを散りけり山中小大湖三あり其外
 中流に湖早八湖ありのれ高山の麓小坂多湖もある半奇異也ん
 霊地あり○溪の地産ありそ終り本の之を指をいへた小
 ○陸橋○不勅堂本寺五丈的玉○妙見祠 又夫玉のまも云ふ
 あり本地龍樹堂の薩あり○立本親善堂本寺千手親善堂一丈
 六尺あり小日天王の像あり圍基勝道上人立本と其徳也て彫刻し
 けり小寺像坂東十八表巡行所あり 俗人安此形に別所あり
 例多れ平並像あり五丈寺の像弘法大師の清地又勝道上人の清地あり

○御本社 御殿あり 尚社大権現を日光三社の奉社母と奉祀を弥陀
 千手馬頭延曆年中の神造より神宝を獲悉地經一卷金字
 の法華經一都八葉鏡一面水牛の香爐赤牙比單葉一管海龍王乃
 赤衣一領若無畏三藏の菩提子珠救勝道上人神誕坐のこた天う
 降る陽杖其外ありあり每歲正月四日夜射赤とてあり社司登山
 して上列赤城の方ふひひのまき法をあり赤城を當社の神歌あり
 中のふは若赤城の神の鹿あり鹿子ともい日夫ぬこれ解といひ
 祝詞いづかの夫と扱とて東これありいづ赤城の鹿子いふと鹿
 赤といふ奉社のいづは方に男體山を登り道ありけ所は碑あり
 弘法大師神院の記これあり中古没亡に去るを 准三原公辨法
 親王再興し給て

○男體山 又黒髮山ともいふ登山道難くせり 積雪多く寒
 風肌中徹る ○三社控現山頂ふまむ廿四日夕少て每奉七

本巻六廿六

月七日は峯に登りけ時七月朔日より中禪寺別所より番を一七日のあひさ
 控のゆりあて登山し三社控あり信公厚に人奇美の雲路を
 得るあり男體山道三所せり

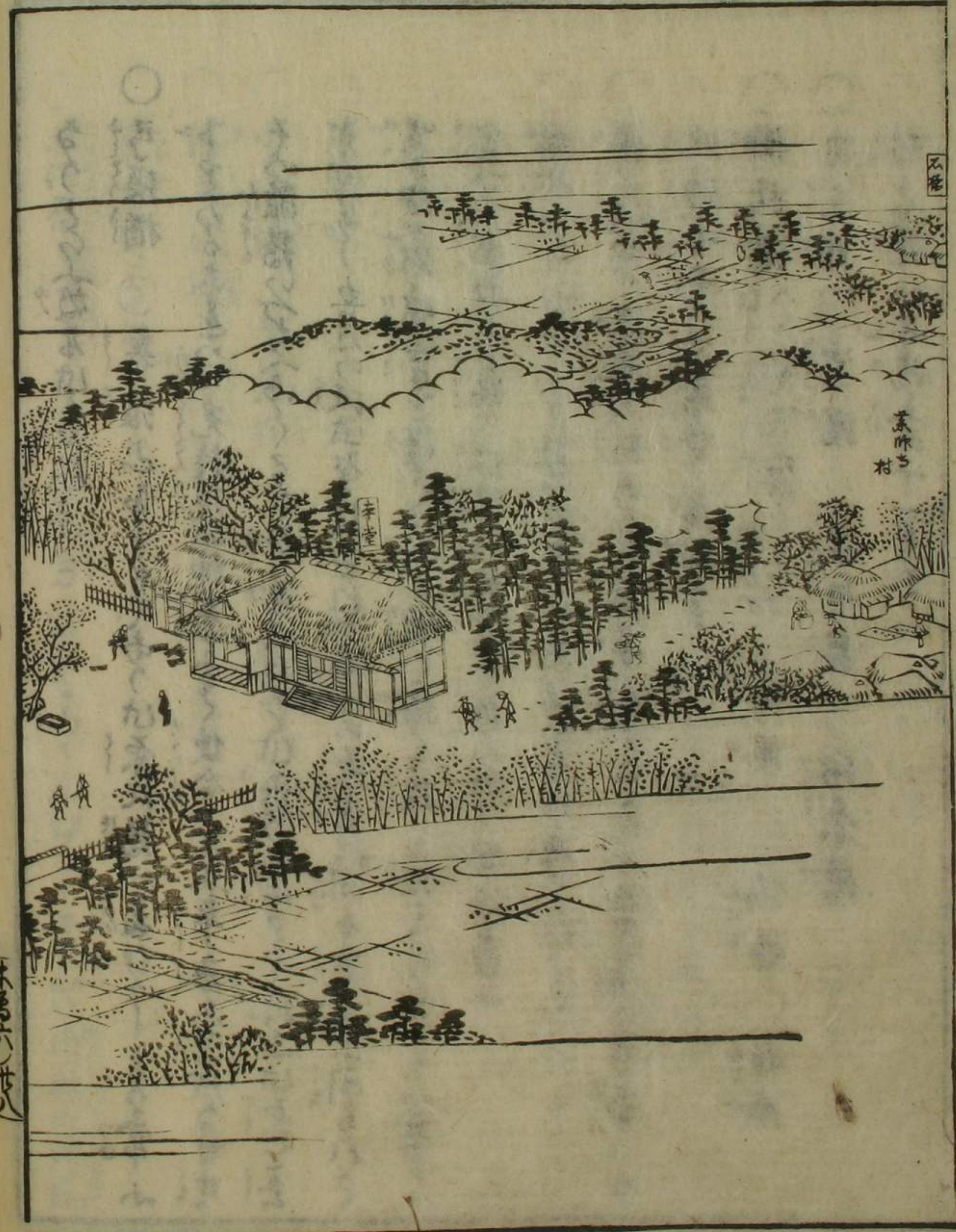
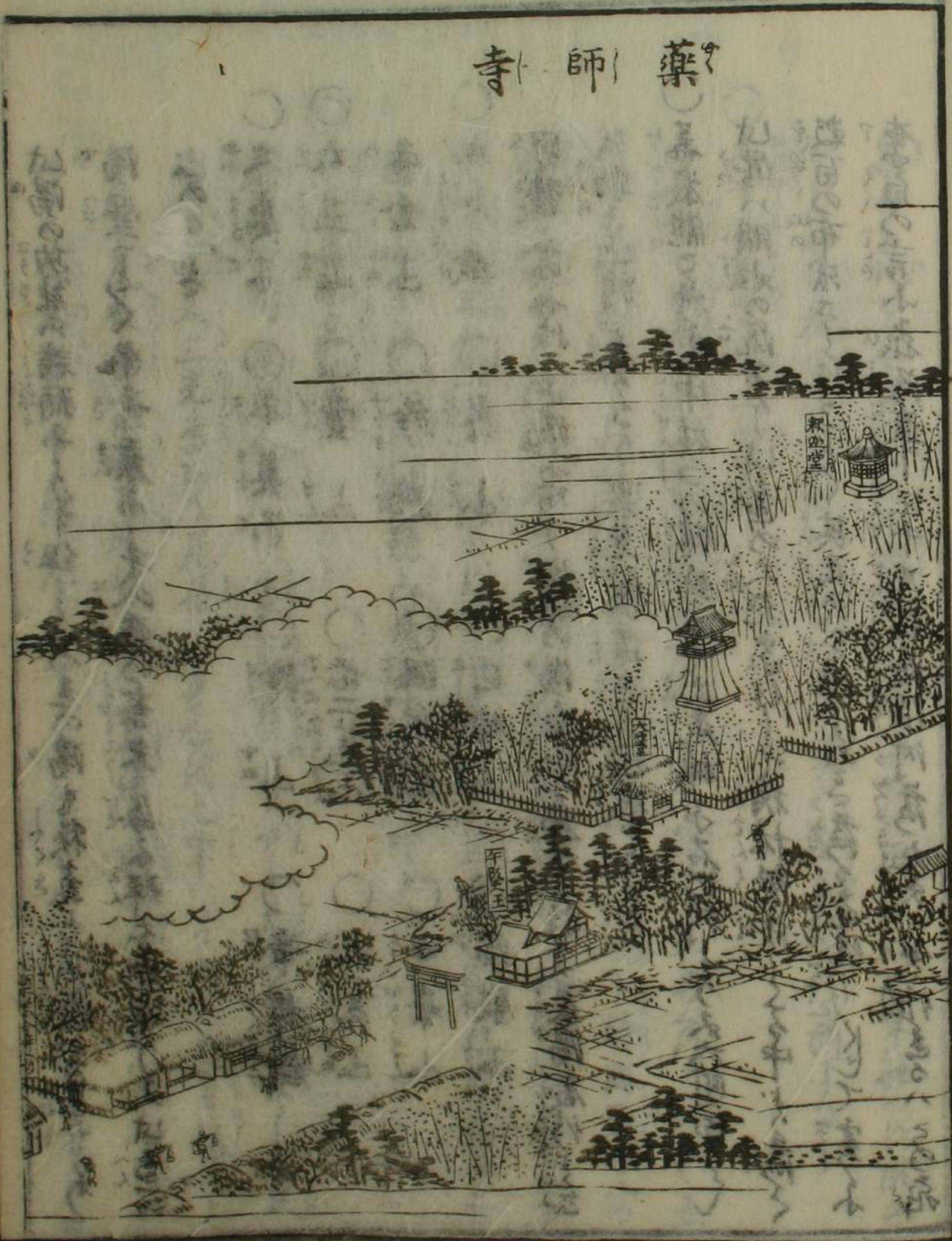
○戒壇堂 奉るハ釈迦文殊普賢ありは別所三國の土城細くあり奉法
 のいづれ方

○根本社 ○摩伽羅天 ○山王社

○三層塔 奉る五智如来 ○採燈護摩の
 湖水のひらふを遠く見たり

○秋の候 こんひひし神軍に討勝たふは所京御陣ありて法軍は
 神達より若葉茶法派ひらふ少ふのく名付ると奉奉るハ若葉天
 孫勒菩薩金剛童子等あり又花伏の入峯山伏の宿あり每奉三月
 十三日入峯し四月廿日小中峯にて終を花伏を奉奉るとして高
 難りぬりて向ふの峯を小見ゆら

藥師寺



本居六世



去来

枕

傾城

この

楯は

ヤ

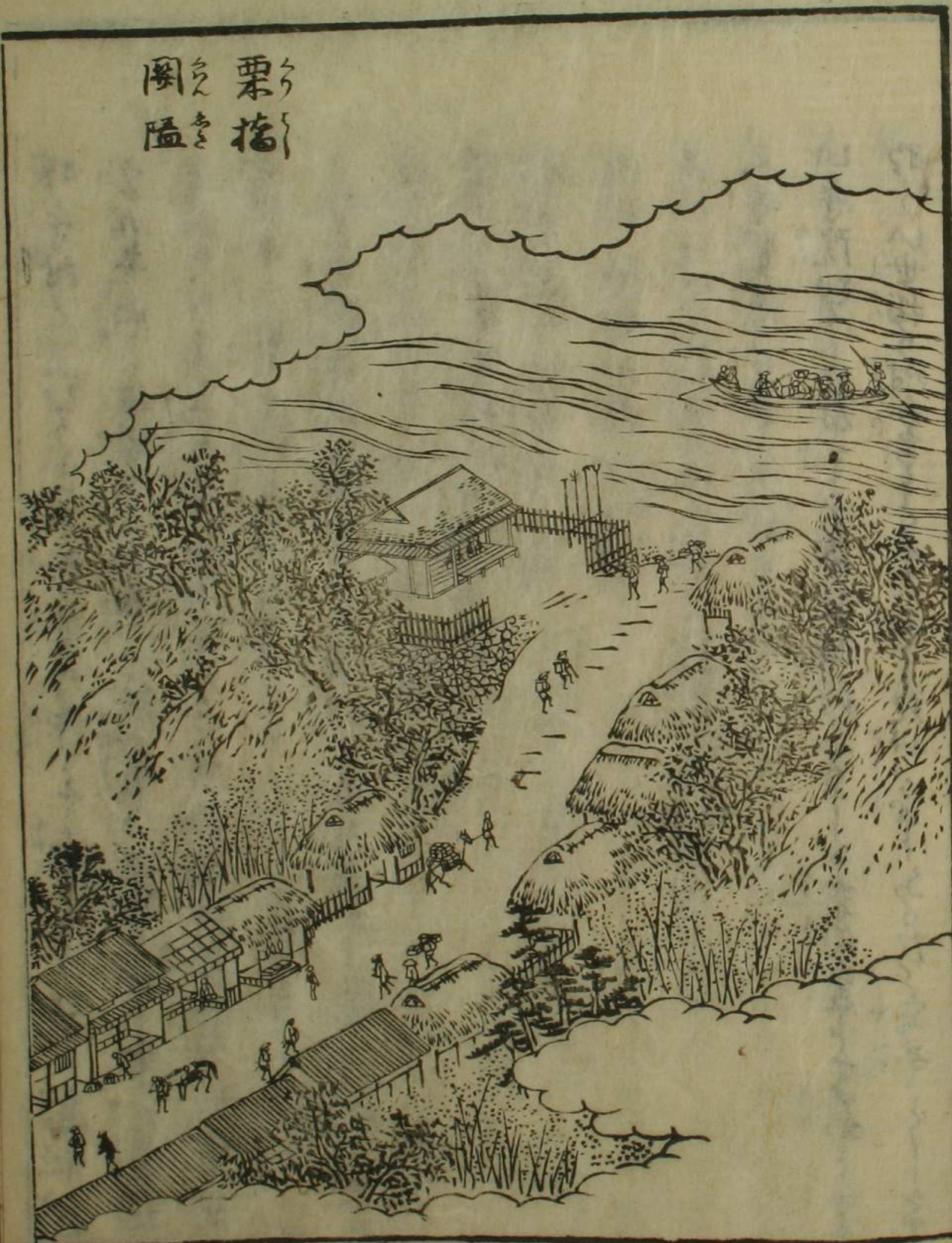


とまど
小山田
驛

この道筋は
奥列街を
にせ帯小
旅人のゆた
しげく
あか
英靴と靴ひ
夕日かやく
立却くゆた
種瓜引く
一敷のぼり
形をせと

本巻六三十一

栗橋 栗橋
園 園



○徳川節より宇都宮まで七里半

此街乃竹本不自由なる少人宿の民衆に成のるに家まゝ一歩も進
と致す獲る其所の人の切かよりあゝしく風手に吹かればと客を
みか成りおぼく宇都宮より栗橋までと直り日光より宇都宮
へと致す一歩のこれより江戸までと直り宇都宮より日光より

より江戸まで七里十六所あり江戸より此所まで八里の街及び
少人馬の往來志げく狭自由なり合津も東海道程にふけ
ども多ういふ宇都宮の味下廣く所長く徳川よりいふ園の都
會方りて是より江戸街道より樹の枚多し九里半あり

○荳宮より石橋まで一里半五所

此間も列樹の枚多し民衆所々あり

○石橋より小金井まで七里半

石橋より栗橋半里より小栗原寺とて小栗寺あり即其所に栗

昨寺村といひし一ノ下坪の薬師寺とて大寺なりし一ノ慶帝
字五年初に戒壇法華院寺を親皇宮に建てし一ノ幸之亨親
書未見くし一ノ凡天下に戒壇あり一ノ寺南都の東大寺院の親
世音寺下聖の薬師寺は三箇所小の寺ありけ外に建宗寺法ゆる
されど弓利道院も称徳天皇崩御の後左遷せしけ寺の別當小
形一ノ寺あり今ハ終の小寺とあり

○醫王山薬師寺 下聖園薬師寺 村あり

幸之薬師如來 長五尺許

開基濫真和尚 別自筆の 画あり

其外什室弘法大師の筆に大般若經 二百九十六巻 目あり

又晋賢像古筆唐画なり

此寺院むし一ノ表を寺内勅願所あり一ノが東園裏にて新とあり
形一ノ世極の時を今ハ一ノ今ハ一ノ此村にありたるが新とあり

本名六世三

解腕の空門入ふ此淨境もいひつる

此處より常陸の筑波山なる山嶺ニつたり高山中々富士と似たり

あり九里なる有都とまれを江戸までの間中けし外小くは

武蔵下総下野の園中にし形一ノみか平原の地なり小坂あり

山あり筑波山乃南あり山はたつたり北の山とてあり其麓を麻

傳行り水戸と行くと其小なり下総園と武蔵の山ありは陸と下野

とたまたまなる常陸下総の東なり下野と下総の西にあり

此園の形はこれに桃李の花甚多し桃の花は管内の桃より色濃く

なり一ノ李の花も赤し一ノ西の方にはより李は色もよりて白く

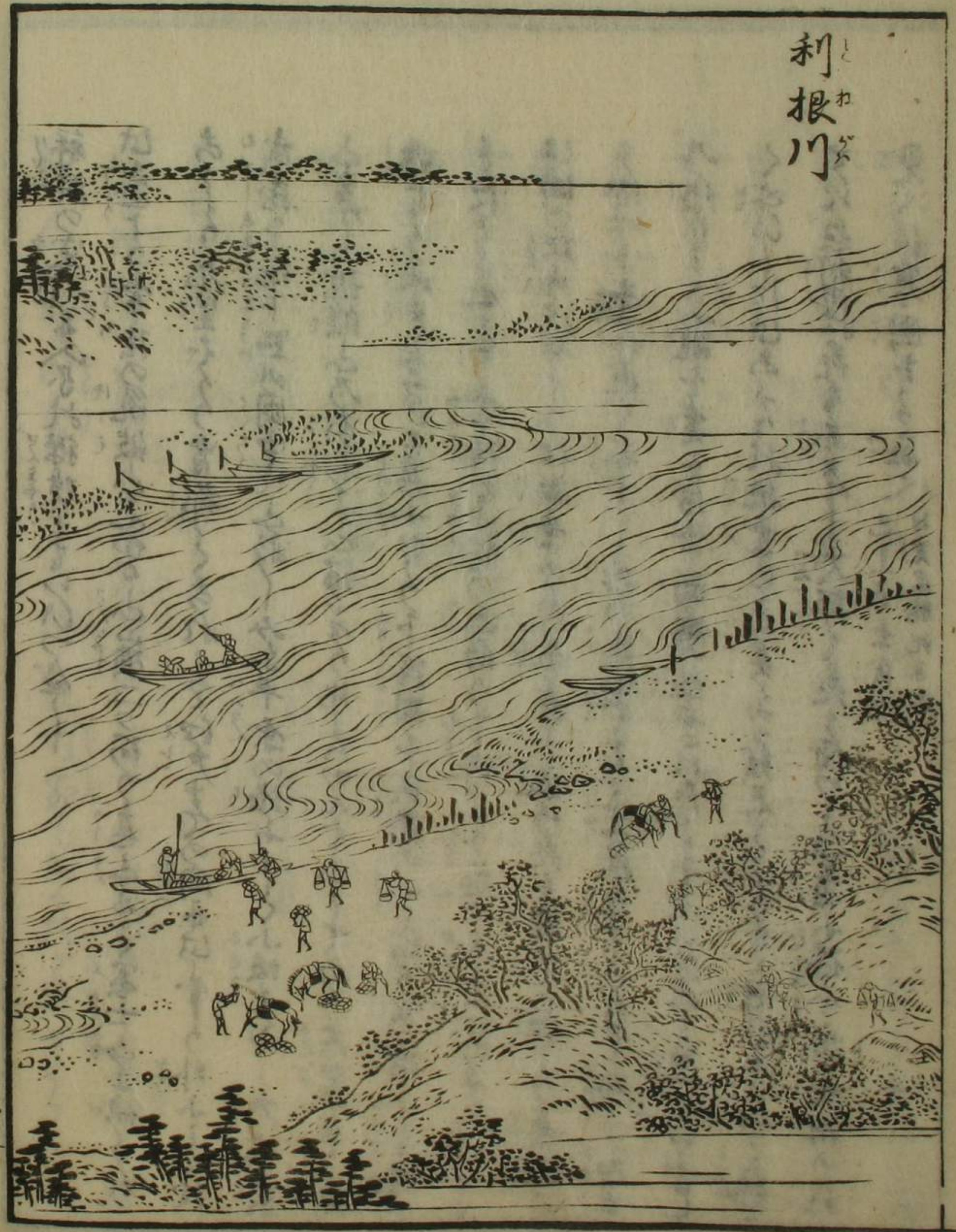
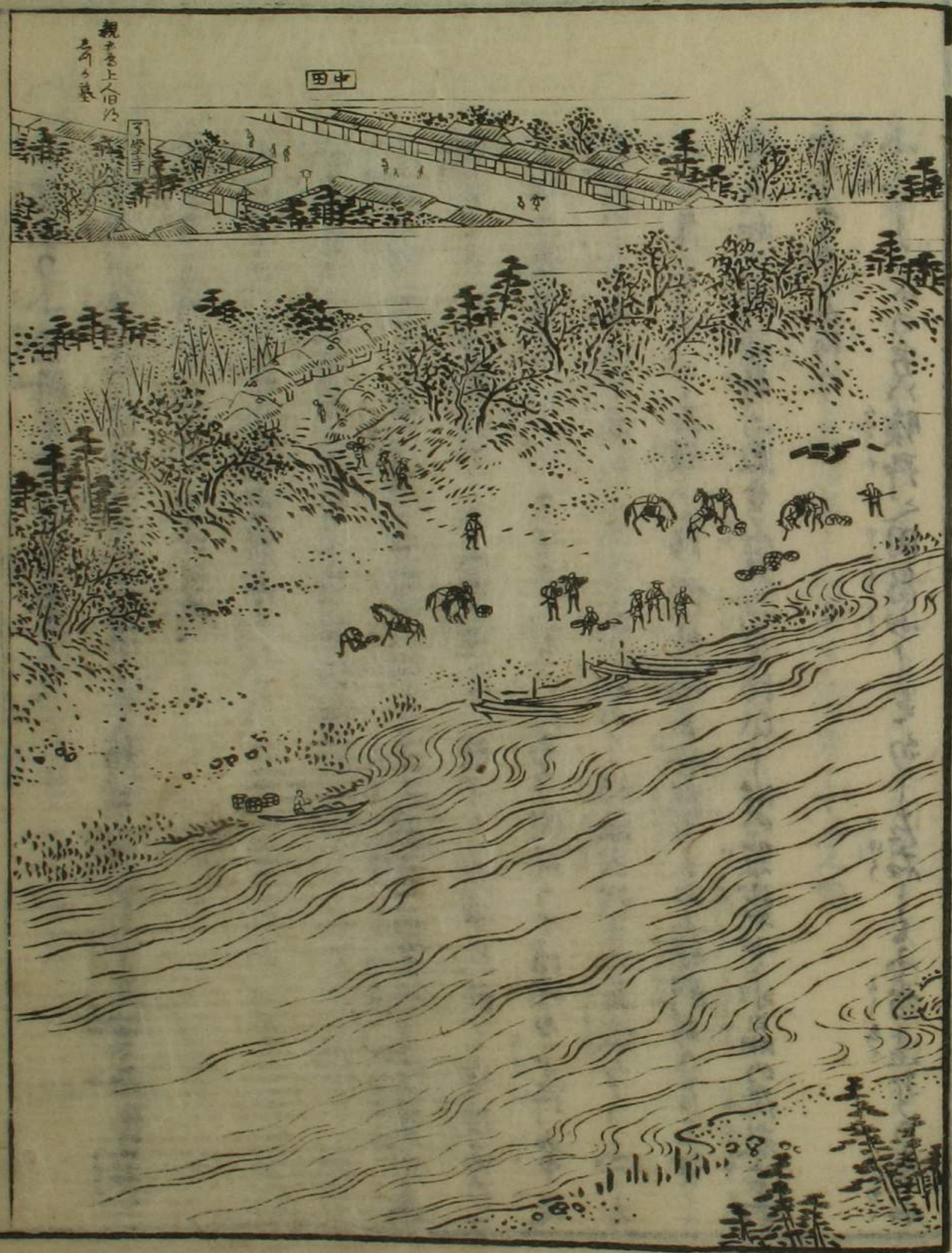
乃待たりふ桃を畫とす幸西園の桃李は花よりけり

くこひにはありし桃李の色もあつたはるる実りと思ひし

これと梨は花も赤し一ノ大梅も花よりけり

見くは寒園なりあり

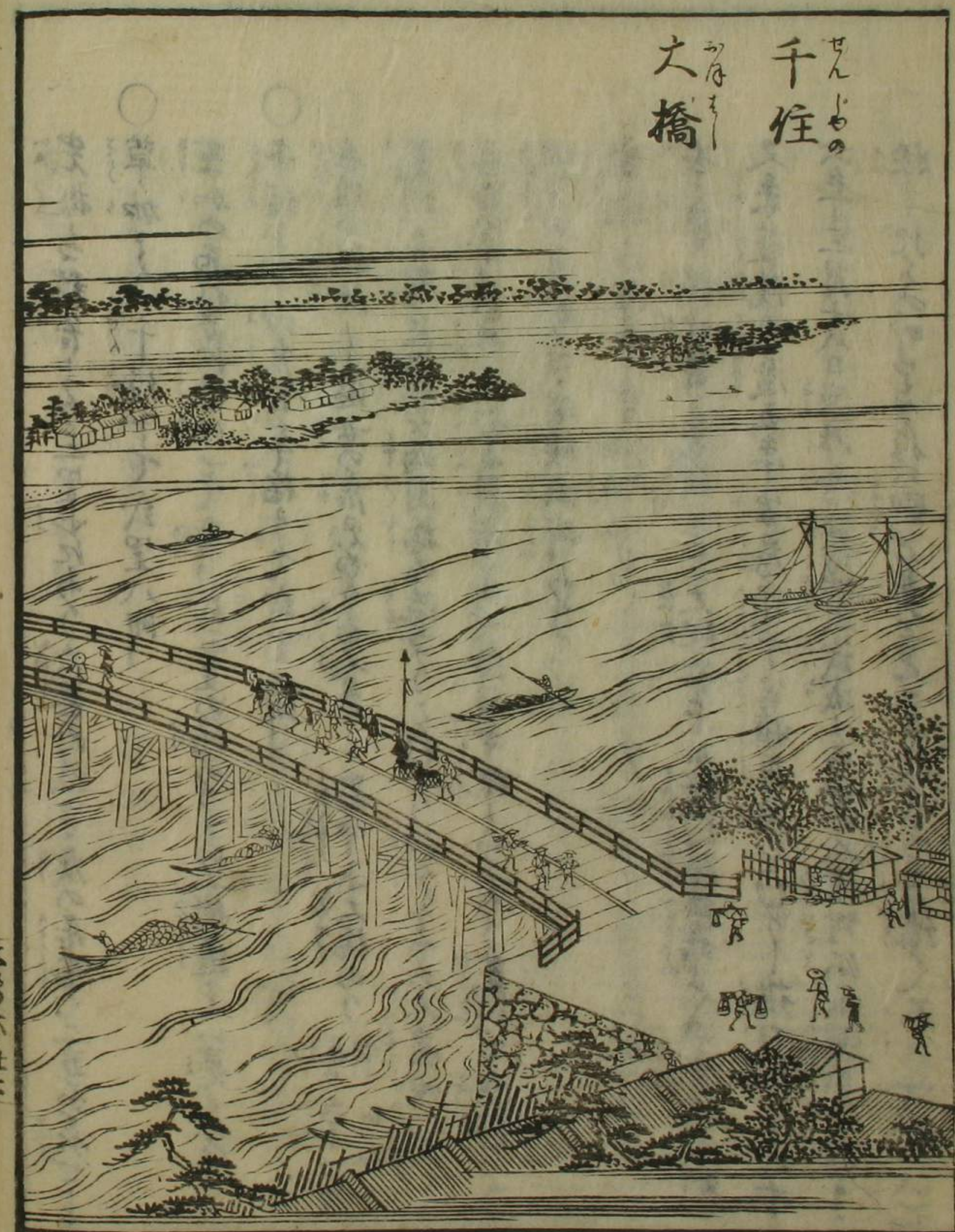
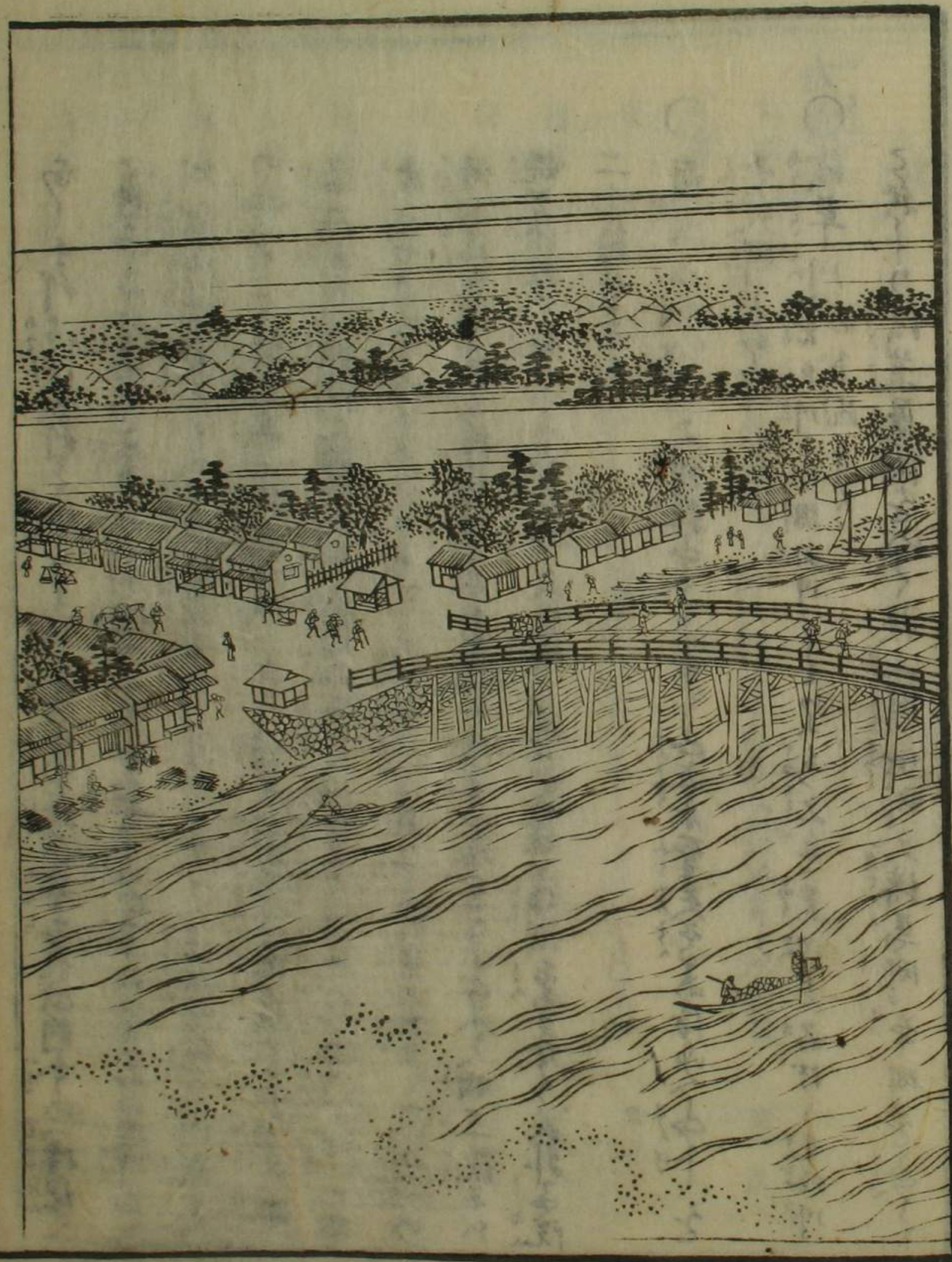
已上具原氏乃 日光名勝記本出



本卷六世四

○ 粟橋より幸手まで式里二町
 粟橋小園吏所ありは圃より右の方小利根川あり坂東第一の大
 河なりともいふもいふは人取坂を即ち上野の奥沼田より流る
 上野下野武蔵下総流る隅田川よりして海入
 粟橋より幸手までいふより幸手より糟登までいふは其の方へ
 糟登より江戸までいふは其の方へ
 ○ 幸手より枚戸まで式里半
 ○ 枚戸より糟登まで式里半
 ○ 糟登より越谷まで式里八町
 比日糟登より宿は比取より子母の方小園宿より所あり久世大和
 守彦の居候より五万八千石にせしは糟登のよりはさふ不動虎連
 園東の山伏の司あり
 ○ 越谷より草加まで式里廿八町

○ 岩槻より越谷より二里にあり大岩丹後守彦の居候二万石にせし
 ○ 草加より千住まで式里八町
 草加の西北方に粕原まで廣サ式里の流ありとて街道より見れば
 ○ 千住より江戸日本橋まで式里八町
 千住の駅宿一遊女の店もあり宿中本大橋あり
 荒川舟架尻末と兩國橋の流ありこれより江戸まで大畧河橋
 三谷の町成るる朝倉越谷の所日本橋よりあり荒川の川合あり
 以下の所朝倉原傾城あり
 ○ 金龍山法草寺
 奉尊親世音 孝徳天皇大化元年本沙門勝海始ては寺成り
 又朱雀院天慶五年安房守平公雅再興をむし推古天皇二十
 六年三月十八日漁師橋建漢成武成より三ノ成州河小細流より
 怪しむるの心とて別と見ざる親善の言傳く不思議の心と



あしきが藤原のりく柱とて飯本草堂と結ひ安んはけ所今の二権現
 こ終りたるあつと書しつゝを詠りてあの人書とていふとせう右の漁師三
 氏三社権現と書し又十社権現と今に藤原をりつゝ藤原公経の辨財天
 の社ありこれに園東三辨天の其一より慈母系傳社圓魔堂石像の災
 害大星天と弘法大師の他神明の社五重信行堂持梅隨身門心門に毎
 年正月の十六日あつと書し神修門の教名海堂の等々又山門の
 傍小鉢あり後小橋系神と高所の地主の社ありとて又文明王院あり
 姥が枕の石ありとあり辨天の廟ありの姥が娘成ありり其外子院
 二十箇寺あり

○真土山 又侍乳山とも書く山上小聖天ありあつと書し山下を
 聖天明とていふ
 ○浅草川 宮川とも開田川ともいふ上を荒川と名づく千代川
 こ終りて法華見附をへく横山所他町大傳馬所幸町をへく

本居六ノ世八

武蔵野

宝町小浦より日幸橋に至る

後飛 女らむし月家林のむしり此の法より書しつゝあり
 新長 じり神やりのも林乃そそをたけいり此の風の事よけん
 日 じり末を末をむしりの武蔵野小浦の末よりつり月乃
 後古 武蔵野 月乃此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃
 日 むしり此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃
 後拾 其の目れり程も此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃
 玉葉 海なるはも入るも此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃
 後十 子規一愛ゆふじり此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃
 日 せしり此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃
 後後拾 妻も此の法より書しつゝあり此の末よりつり月乃

黄之
 通光
 持政
 大政大臣
 又納言
 通方
 正二位
 如家
 後鳥羽院
 下野
 正三位
 如家
 法中
 欽海
 山階の道
 正六位
 後鳥羽院
 正二位
 家隆



本居六世九



新拾

さ成麻のよふ花あかづねむき中隔ふゆたすけの系

深二位 家隆

日

分りせ花のらさけそり外林をうさるん武花野系

浅末切去

新後拾

り末の病ふ母一白飯のふもふあむむむむむむむ

浅人志に

日

惟方ふふ帰層の若手まふ激うけうふ武花野系

定太

日

ゆ一の報をうさけむね白雲れむふつむ武花野の系

深末良言

新後拾

武花野ゆりの通もこい遠ねえあうう武花野の系

定家

續拾

まのこ武花野の妻やうら夜満こ草まむむむむむ

古井門院 御製

奇林

まゆ一野々花ゆりもこいねつゆさの系乃雲れまれ

好昭

新十

系枕付一旅夜のらうね日敷けさうさうむむむむ

好家

夫本

むら一野々思の系花林を花けうたかろふる非

好忠

霞の關

大名中庭にありむ一奥列樹庭あり

本大納言 好世

日

別はゆまの表の園のわととふ月りとさう光やとる

浅二位 宣子

本考六の甲

新右

いほよふ名成のこく地く東落の表中開をまきまの

浅人志に

向丘

不要此の申酉の方と

新執

武花野乃向ひの思をまきけね花野身ても表とそふ

小阿

後右

朝ふくよけまむるまけうま向ひ思ふつりねとる香

好家

玉系

夕附日けひの思れすおまきまふれひま林の通る非

定家

夫本

夕日さけ向ひ乃思のほとれを雲乃ほそふとるまきまけ

深末

権兼の井

半遊ま

ひさし野々花の井とあまのこ娘くあらの通はさかり

信成

木曾路名所圖會卷之六 文尾

北陸東奥勝地真景

北四輩順拜圖會

全部十冊

山城近江越前加賀越中越後信濃
上野等八箇國 前篇五冊
武藏下総幸陸陸奥出羽下野相模
甲斐駿河遠江参河尾張美濃後篇
附錄 伊勢大和河内攝津備後五冊

山陰道名所圖會

全部七冊 近刻

南海道名所圖會

全部世冊

紀伊國名所圖會 全部五冊

淡路 河波 濱岐

同後集續編 嗣出

伊豫 土佐 續刻

文中題詩諸名家寄合書此書を
唐土名勝圖會

直隸省部 全部六冊

此書ハ山城國中社佛國の地記を
唐人英哲寺の經疏と教百編の
記し香米とあり 助とる乃を
此書ハ山城國中社佛國の地記を
唐人英哲寺の經疏と教百編の
記し香米とあり 助とる乃を

五口土訓蒙圖會

平任專安先生撰
後集軒橋圖會
全部十九冊

山城名勝志

全部二十二冊
厚十二枚箱入

山列名詠志

全部二十二冊

帝者雅景一覽

文應山人書
全部 二冊

系の

全部 二冊
二面

都細見之圖

懐中折本一冊

都名所分

懐中小本一冊

花洛細見圖

折本十五冊
集法外許社圖會

出來初系七卷

全部 七冊

京師
全部拾五冊

都茶時記
全部 七冊

